

ジョウザンミドリシジミとの初の出会いは家族旅行で訪れた1974年7月29日、霧ヶ峰高原の車山山頂部で上昇気流に乗って飛来した個体を捕獲して、三角紙標本のままで保管している。なぜ展翅をしなかったのかその理由は思い出せない。次いで、初めて家族で北海道バスツアーに参加した1976年の7月、ウトロで迎えた早朝の散策時に捕獲して、この個体も三角紙標本のままで、中に入れたラベルには採集した時刻まで記録している。近縁種の



エゾミドリシジミと非常によく似ていて、本種では後翅裏面の橙色紋が中央部でわずかにアーチ状に小さくなるのが区別点の一つで、エゾミドリシジミは橙色紋が幅広いままつながっている。

July 11, 2004 北海道富良野市布礼別川林道

1999年にオオイチモンジ目的で訪れた富良野市の布礼別川林道へ。この辺りのオオイチモンジ発生は北海道でもかなり早い7月10日頃となっていて、1999年には7月8日に多くの個体に出会えたが今回の訪問はオオイチモンジにはあきらかに遅く、あわよくば発生の遅いメスに出会えたらいいかなという程度の期待で、本命はメスアカミドリシジミなどのゼフィルス類だ。布部川が林道から右奥へと離れて木陰が多くなり、部分的に陽光が射しこむ、そのような場所でゼフィルスが飛ぶ。多くはメスアカミドリシジミでときには卍飛翔が展開されるが、路傍の樹の葉

っぱを叩くと、別のゼフィルスが飛び出すのでネットインをすると、早朝に活動して休憩をしていたとみえるジョウザンミドリシジミだ。この2004年の訪問時には



いつものビデオカメラではなくて一眼レフのCanonEOSカメラでの撮影を主としていて、結局ゼフィルスの映像記録は残せていなく、標本写真のみを示す。ミドリシジミの類は光線の当たり具合によって微妙に異なる色調を観察でき、本種も基本金緑色が美しいのだが、角度を少し変えるとエメラルドグリーンにも輝いて見える。

Aug. 28, 2005 しらびそ高原でメス個体

道路右手のスロープ下の小さなサクラの木の葉っぱにムラサキシジミを思わせる色調で大型のシジミチョウがチラチラと飛ぶので確認しに下りてみると、閉じた羽の裏模様からゼフィルスの♀だと分かる。模様が非常に似通った族で筆者はあいかわらず現場ですぐにその種名を特定できず、帰宅後に図鑑と照合してジョウザンミドリシジミだと同定する。



50828 しらびそ高原